

イシカワシラウオ (本じらす)



生態的特徴等

【生態】 青森県～和歌山県の太平洋岸に分布し、沿岸の岩礁域や河口付近に生息する。寿命は1歳で、成熟、産卵後死亡する。産卵期となる2～5月には、雌は雄より大きくなり、雄は臀鰭鱗が吸盤状となる。卵は粘着性で、岩礁域の砂礫底での採集記録がある。ふ化直後の仔魚は全長4.4mmで、最大で7cm程度に成長する(図1)。

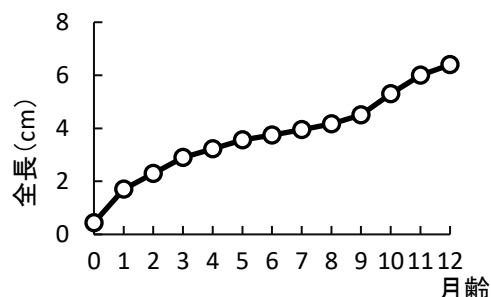


図1 イシカワシラウオの成長

【漁法と盛漁期】 船びき網で漁獲される。盛漁期は2～4月で、主に繁殖のため河口付近に集まる成熟個体が漁獲される。茨城県では、川尻、久慈、磯崎、大洗、鹿島地区の水揚げが多い。

【利用】 生食用、煮干し原料として高値で取り引きされる。霞ヶ浦北浦で漁獲されるのはシラウオで、別種である。

資源水準は低位、動向は減少傾向

(漁獲量) H4年以降数度の増減を繰り返しながら、H20年の98トン进行ピークに、増減の山が低くなる傾向にあり、R6年から1トン未満となった(図2)。

(水準と動向) 寿命が1歳と短く、また環境変化の影響を受けやすい沿岸域に生息していることから、資源変動の大きい魚種と考えられる。茨城県の過去30年間(震災影響年を除く)の船びき網のCPUE (kg/隻・日)の推移から、水準は「低位」、直近5カ年の傾向から、動向は「減少」とした(図3)。

水準



動向

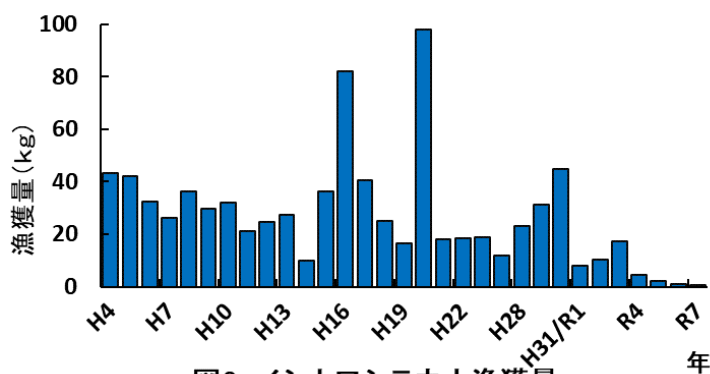


図2 イシカワシラウオ漁獲量 (震災影響年H23・24・25年除く)

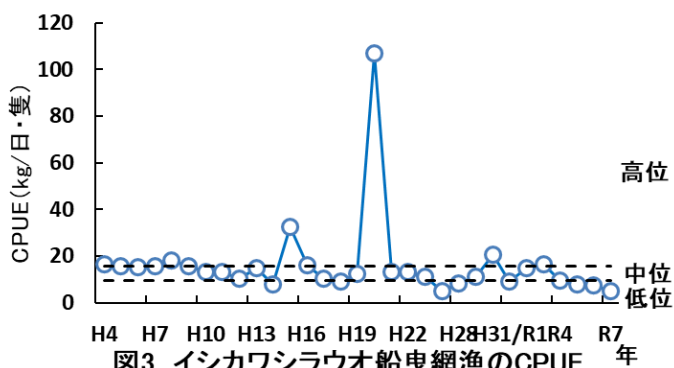


図3 イシカワシラウオ船曳網漁のCPUE (震災影響年H23・24・25年除く)

【全国の漁獲動向】

- ・ 全国漁獲統計はないが、茨城県以外に、青森県、宮城県、福島県、千葉県などで漁獲されている。